

令和6年度 学校評価報告書

学校番号(小44) 長崎市立(銭座小)学校

1 教育目標

人間尊重の精神を基盤とし、共に生きる豊かな心と、たくましい身体を持ち、自ら学ぶ意欲と確かな学力を身につけた人間性豊かな児童の育成

2 学校経営方針

【合言葉】わたしが主人公、一人ひとりが主人公 ～わたしがわたしをつくる わたしの学校生活をつくる～
【育てたい資質・能力】 やさしく 互いに認め合い、支え合う
かしこく 進んで学び、工夫する
たくましく 粘り強く、たくましく

3 重点目標

生徒指導 ○自己指導力を育てる
学習指導 ○教育実践の核となる授業実践 ○学び方のもちあじを生かす授業
特別活動 ○よりより自分、学級、学年、学校生活をつくる力を育てる
特別支援教育の充実 ○自立に向かう学びづくり
人権教育の充実 ○自他の人権を守るための意識、態度、実践行動力を育てる
健康教育 ○基本的生活習慣の確立○楽しい体育学習の工夫○ 安全指導

4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果 (肯定的割合・%)			分析及び改善策
			児童生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	合言葉「わたしがわたしをつくる」を達成している	83%	92%	100%	児童・職員共に合言葉の「わたしが主人公」であることを意識しながら、主体的に学校生活に関わり合っていることが数値からうかがえる。 業務の改善については昨年度より14%向上している。日課の工夫や業務量の軽減により時間に余裕が生まれたと感じている。
	教育目標	合言葉「わたしが学校をつくる」を達成している	95%	82%	100%	
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	92%	78%	100%	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			100%	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			91%	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	93%	87%	100%	あいさつについては、児童はできていると感じているが、保護者の評価と差がある。地区懇談会等でも話題になったが、「朝から元気がない様子も見られる。」という声も届いている。三者で連携して「あ・は・は運動」をより推進してあいさつあふれる元気な学校にしていきたい。 人権教育については、三者ともに昨年度より向上している。「人権」やそれぞれの「もちあじ」という言葉や意味も浸透しており、「なかまの時間」や「リボン集会」など、本校の特色を生かした継続的な活動の成果だととらえている。
		挨拶をよくしている	90%	66%	100%	
		「あ・は・は運動」を知っている(指導している)	85%	75%	75%	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	94%	91%	100%	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	90%	83%	100%	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	95%	93%	100%	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	88%	90%	100%	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	95%	78%	100%	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	94%	90%	91%	「わかりやすい授業」については、三者ともに数値はかなり向上している。授業改善や「canva」などの新たなツールを活用した校内研修の充実が成果として表れていると感じる。読書に関しては、貸出冊数は昨年度よりも伸びているが、保護者の評価が低い。家族読書の推進やメディアの利用時間徹底など育友会と協力して推進していく。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	94%	81%	100%	
		家庭学習の習慣が身に付いている	85%	88%	91%	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	79%	65%	100%	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	92%			
	読書	本に親しみを持っている	79%	52%	100%	

健やかな体	保 健 ・ 衛 生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	93%	78%	100%	保護者の評価から「早寝早起き」や「ネットのルールを守る」などの基本的生活習慣が十分定着していないことが考えられる。正しい生活習慣を身につけ、心身共にたくましい児童の育成を目指して、学校保健委員会では、来年度も講師を招いての研修会を予定している。
	体 力 向 上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	87%	63%	92%	
		体力向上に努めている	92%	76%	100%	
	食 育	食に関する教育活動を行っている	80%	63%	92%	
	テレビ・ネット	テレビ・ネットのルールを守れている。	87%	60%	83%	
信頼される学校	安 全 管 理	児童生徒の安全に気を配っている	94%	96%	100%	学校便りや学級通信は定期的に発行されており、情報提供はおおむねできている。今年度は、「tutoru」を活用し、さらなる情報発信に努めている。しかし、便利な反面、既読率があまりよくない。紙媒体との併用で情報の周知を図ってきたい。
	情 報 提 供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	95%	92%	82%	
	P T A ・ 地 域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	67%	92%	82%	
	職 員 資 質 向 上	研修が充実し、資質が向上している			100%	
教育環境	環 境 整 備	教育環境が充実し、整備されている	95%	90%	92%	三者ともに教育環境の評価は高い。職場環境については昨年度より20%向上している。様々な業務改善の成果と考える。
	職 場 環 境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			75%	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

○昨年同様、本校の特色を生かした「人権教育」が児童のなかに浸透しており、人権意識は高い。今後も「なかまの時間」や「リボン集会」は継続して取り組みながら、自己肯定感や自己有用感を感じられる環境づくりに努めたい。

○昨年の反省から、日課の工夫や行事の精選、フレックスタイムの活用など、業務改善を行い働きやすい環境づくりに努めてきた。業務量の軽減や時間を生み出すアイデアを互いに出し合ったことが、改善につながった。

○「あ・は・は運動」は家庭や地域に認知され浸透してきているが、まだ不十分である。基本的生活習慣の乱れが、学業不振や不登校の原因の一つになっていることも考えられる。今年度の学校保健委員会では、「子どもの規則正しい生活習慣確立に向けた家庭や学校、地域の関わり方」のテーマのもと、活動してきた。県立大の伊藤先生を講師に招いて「レジリエンスを育む子育て」について講演していただき、しなやかにたくましく生きるためのヒントをうかがった。来年度も「あ・は・は運動」を継続して行い、保健指導や学校保健委員会を活用しながら、基本的生活習慣の徹底を三者で図っていききたい。

6 学校関係者評価

○あいさつについては、する子しない子それぞれである。家庭で「おはよう」が言えているのか様子が気になる。かっぱ隊(見守りあいさつ運動)の上着を着ているときや、来校した際は元気にあいさつしてくれるが、校外だとあまり反応がない。不審者対応の観点から声をかけづらいときもある。

○昨年度の数値と比較して、業務改善が進んでいることがわかる。児童と向き合うための時間を確保することは重要である。

○いじめ対策としてどんなことに取り組んでいるのか。→日常の観察に加え、毎月「なかよしアンケート」を実施している。

児童数が少ないので、目配りできているのではないかな。

○いじめはない方がいいが、いさかいや困りごとに出会ったときどうするかは社会に出て生きていく上では必要な経験だとも感じる。

○集団下校の際は、上級生が「車が来ているよ。」と下級生に優しく注意を促す様子が見られた。縦割り活動の良さを感じた。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

○保護者や児童の数値が低い項目については、改めて学校の取組が十分かどうか見直し、来年度につなげていく必要がある。

○スマホの所持率や家庭におけるルールの在り方も話題になったので、基本的生活習慣の定着とも併せて、学校保健委員会の取組とタイアップしていきたい。